

河川事業 再評価

阿武隈川総合水系環境整備事業

【説明資料】

令和2年12月

国土交通省 東北地方整備局
福島河川国道事務所

阿武隈川総合水系環境整備事業再評価の流れ

(平成19年3月 阿武隈川水系河川整備計画 策定)

(平成21年度東北地方整備局事業評価監視委員会 (第4回))

平成22年1月 事業再評価
阿武隈川総合水系環境整備事業

H22.4.1以前
再評価 5年毎

平成22年4月1日
公共事業評価実施要領改定
(再評価サイクル短縮等)

(第9回 阿武隈川水系河川整備委員会)

平成24年10月 事業再評価
阿武隈川総合水系環境整備事業

H22.4.1以降
再評価 3年毎

(平成24年11月 阿武隈川水系河川整備計画 変更)

(第12回 阿武隈川水系河川整備委員会 (前々回))

平成27年11月 事業再評価
阿武隈川総合水系環境整備事業

平成25年11月1日
平成26年4月15日
費用対効果分析の効率化に
関する運用

(第13回 阿武隈川水系河川整備委員会 (前回))

平成30年11月 事業再評価
阿武隈川総合水系環境整備事業

平成30年3月30日
所管公共事業の事業評価実施
要領の改訂

(第14回 阿武隈川水系河川整備委員会 (今回))

令和2年12月 事業再評価
阿武隈川総合水系環境整備事業

H30.4.1以降
再評価 5年毎

令和2年度 東北地方整備局事業評価監視委員会において、本結果を報告予定

事業概要

【事業の目的】

- 多くの人々が様々な活動を展開できる良好な河川環境の創出、及び阿武隈川を軸とした地域間交流や参加・連携を積極的に促し、活力ある地域を目指すことを目的に水辺整備を推進します。

「阿武隈川水系河川整備計画」の基本理念に基づき、水辺整備に関する事業を実施

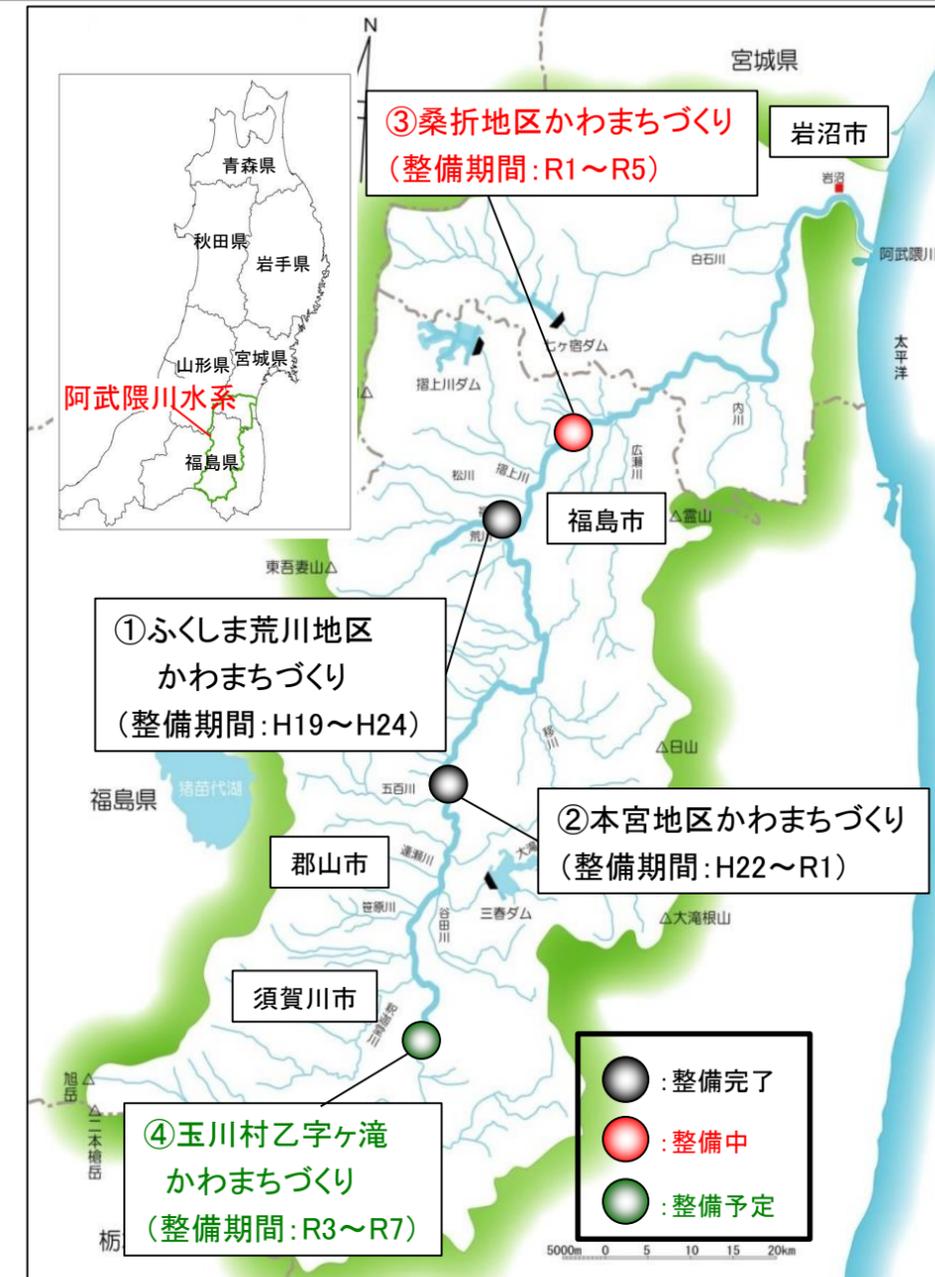
阿武隈川水系 河川整備計画 基本理念

- 安全で安心が持続できる阿武隈川の実現
- 豊かで多様な自然環境の次世代への継承
- 阿武隈川を軸とした人・自然・社会の調和と活力ある地域の創造

【事業の概要】

- 事業区間：阿武隈川、荒川（福島県石川郡玉川村・西白河郡矢吹町～宮城県岩沼市・亶理郡亶理町）
- 建設事業着手：平成19年度
- 事業評価対象開始年度：平成19年度
- 事業期間：平成19年度～令和12年度予定（整備期間（国）：平成19年度～令和7年度）
- 全体事業費：（全体）約13.1億円
- 整備内容：【整備済（完了箇所評価済）】 水辺整備：1地区
 【整備済（モニタリング中）】 水辺整備：1地区
 【整備中】 水辺整備：1地区
 【整備予定】 水辺整備：1地区

●各整備地区の整備概要と工程は下表のとおりである。



事業名	事業費 [百万円]	整備内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
			2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
①ふくしま荒川地区 かわまちづくり	293	管理用通路、看板設置、側帯、 堰横断施設、高水敷整正	■	■	■	■	■	■			完了 箇所 評価			フォロー アップ		フォロー アップ										
②本宮地区 かわまちづくり	170	管理用通路、高水敷整正、 階段、看板設置				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
③桑折地区 かわまちづくり	377	親水護岸、管理用通路、階段、 坂路、高水敷整正、側帯														■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
④玉川村乙字ヶ滝 かわまちづくり	470	管理用通路、坂路、親水護岸															■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

事後評価

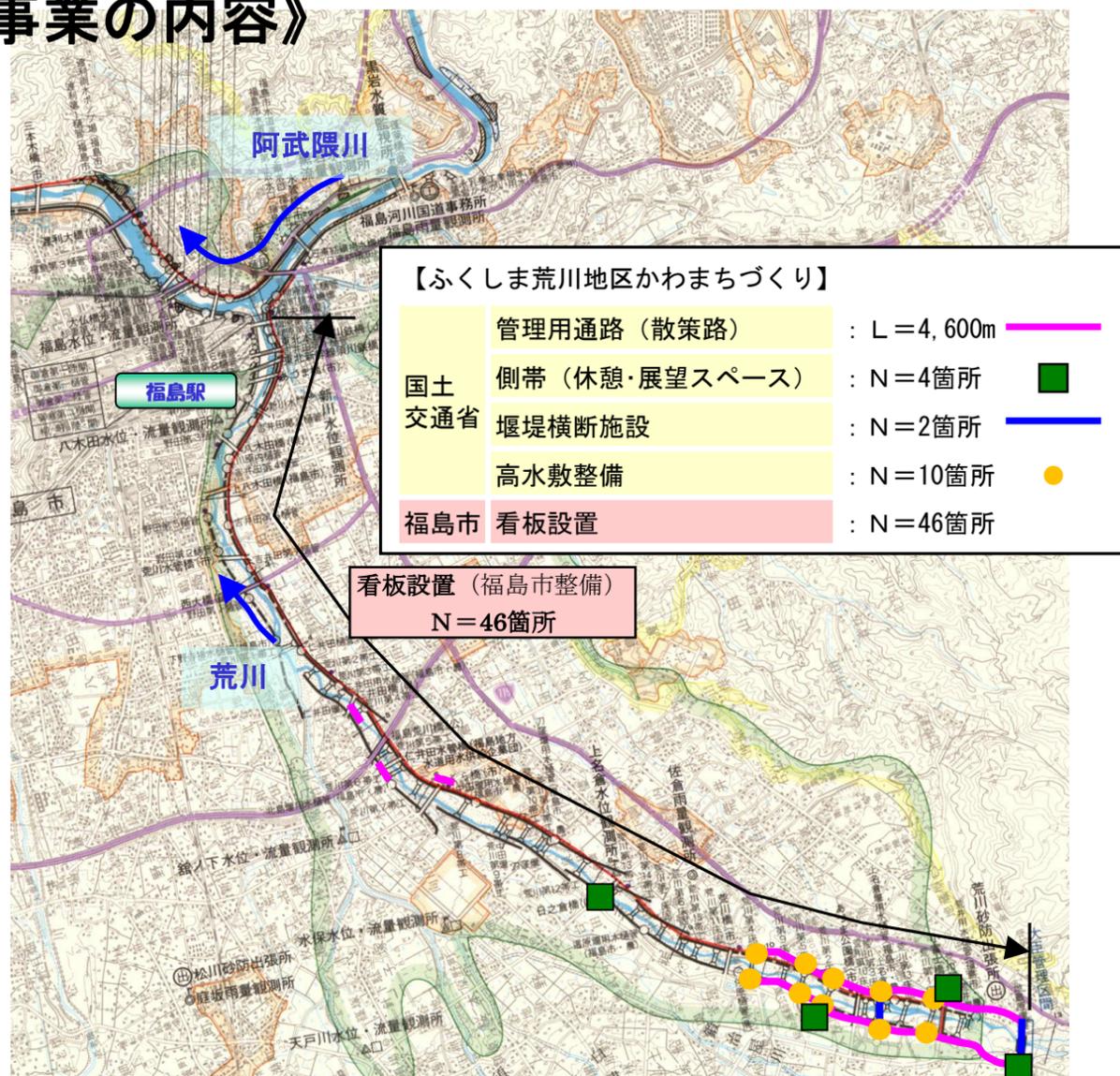
・上記は直轄の事業費を記載
 ・上記工程の赤字は今回の変更箇所を示す。
 ■ : 整備中箇所 ■ : 整備予定箇所（新規）

【事業の目的・内容】

《事業の目的》

- 福島市では、市の都市マスタープラン等に基づき、阿武隈川や荒川において、水や緑のネットワーク化など親水空間の整備が進められています。
- また、福島市では周辺自治体と連携した「観光圏整備計画」を新たに策定しており、荒川の自然や文化を守る活動と観光圏事業を有機的に結び付け、地域活性化を進めることにしています。
- 「ふくしま荒川地区かわまちづくり事業」は、福島市の取り組みと連携し、市街地と既存の交流拠点や歴史的な土木構造物等をつなぐ堤防上の通路や散策路等を整備することで、川とまちのネットワークの形成、回遊性の向上により、観光振興の推進を図ります。

《事業の内容》



整備内容	
国土交通省	管理用通路、看板設置、側帯など【事業費 293百万円】
福島市	案内看板【事業費 2百万円】



管理用通路(散策路)を



地蔵原堰堤右岸の管理用通路(階段)



利用状況(地蔵原堰堤)



展望エリア(看板・散策路含む)

【事業の効果】

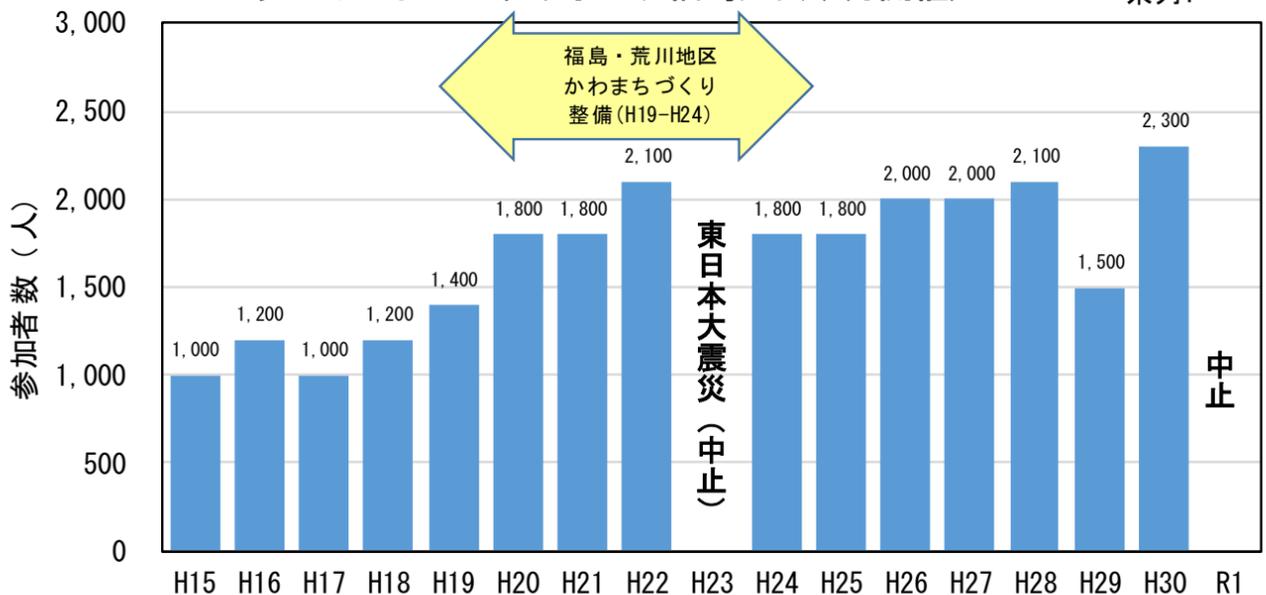
- 管理用通路(散策路)や堰堤横断施設等の整備により、荒川沿いの回遊性が向上し、河川利用が活性化されてきています。
- 荒川沿いで以前から行われているウォーキング大会やクロスカントリー大会などの参加者も年々増加してきており、観光振興の推進に寄与しています。

うつくしま・みずウォーク



- ・ 地蔵原堰（堰堤横断施設）をコースに含む荒川沿川を巡るウォーキング大会（5月開催）。
- ・ ふくしま荒川地区かわまちづくり整備後に参加者が増えている。（H18とH30で約1,100人増加。R1中止）

うつくしま・みずウォーク福島大会(5月開催)



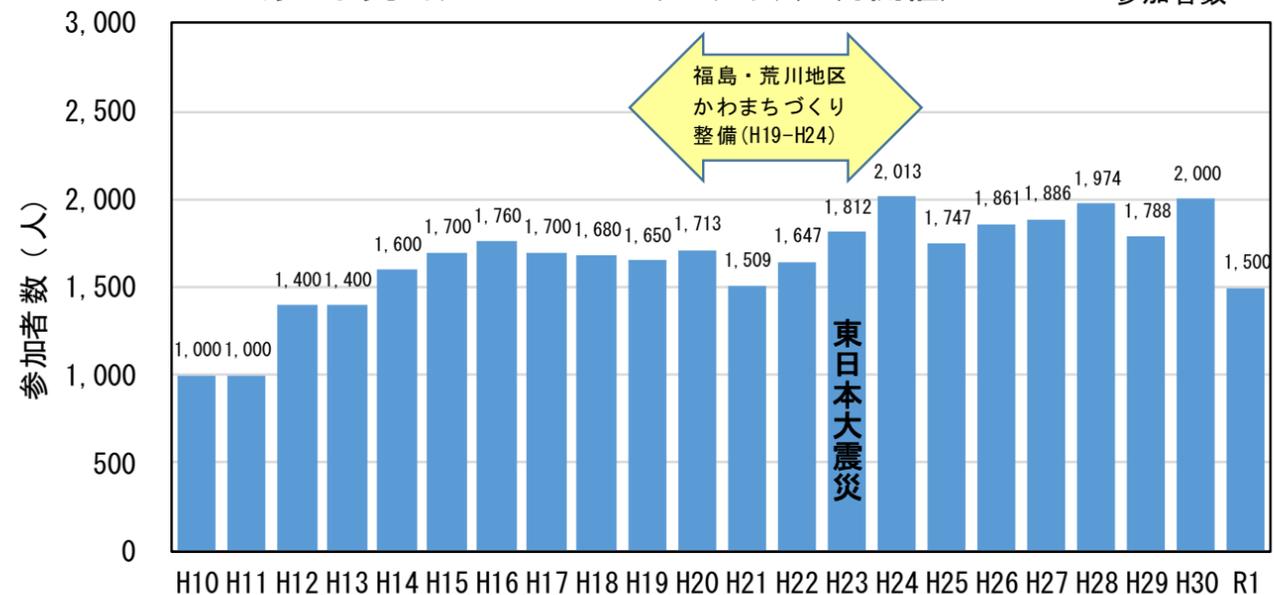
出典：福島河川国道事務所資料

あづま荒川クロスカントリー大会



- ・ H10年から始まった荒川沿川で行われているクロスカントリー大会（12月開催）。
- ・ ふくしま荒川地区かわまちづくり整備後に参加者が増えている。（H18とH30で約320人増加。）

あづま荒川クロスカントリー大会(12月開催)



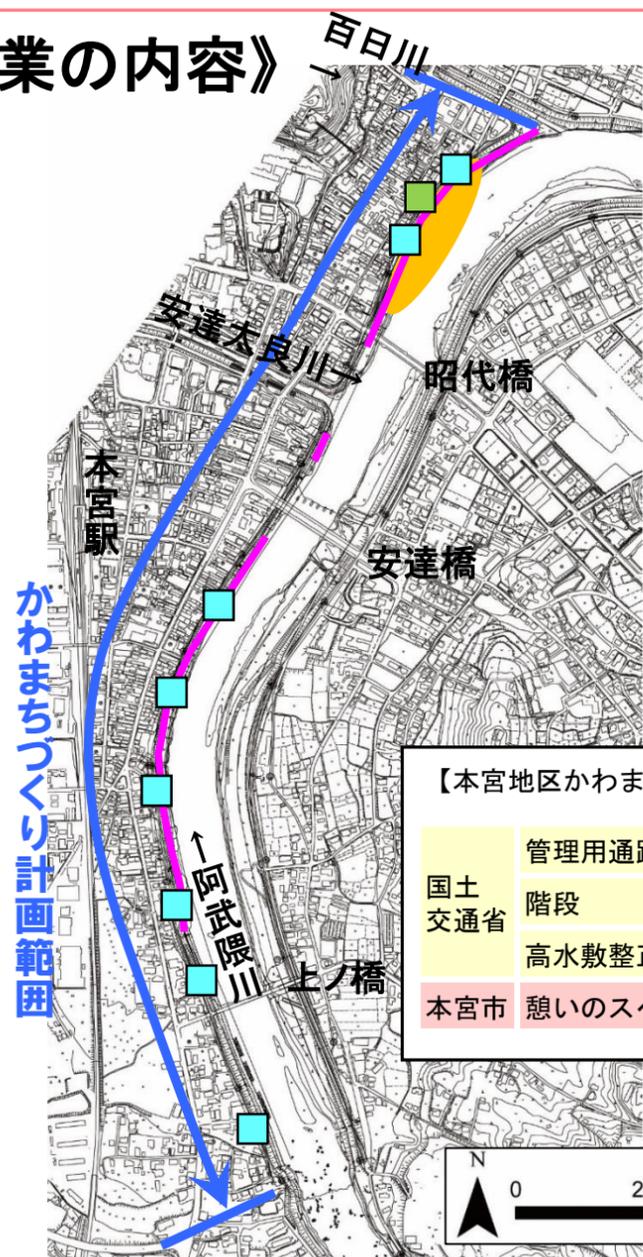
出典：H10～H20, H30, R1：福島河川国道事務所資料、H21～H29：主催者資料

【事業の目的・内容】

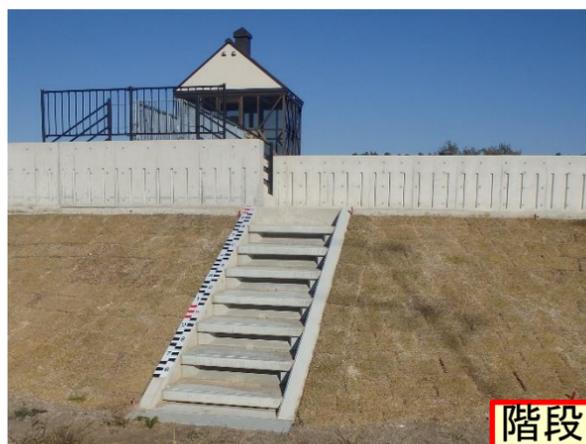
《事業の目的》

- 本宮市の都市マスタープランでは、本宮地区の整備方針として、「本宮の中心地区にふさわしい、魅力と求心力のある中枢機能の整備、多様な都市機能の整備とともに、住み続けたいくなる良好な住環境の整備を図る」を目標に、水・川との調和を求めています。
- 本宮市では河川改修事業と連携し、まちづくり交付金を活用した「街なか再生事業」を実施しており、交流拠点施設の整備やアクセス道の整備等により回遊性ネットワークの形成などを進めています。
- 「本宮地区かわまちづくり事業」は、本宮市の事業と連携し、「まちと川を結ぶ」ネットワークを形成し、まちの魅力向上や、川とまちの交流の場としての河川空間の創出を行い、まちの活性化や観光振興を図ります。

《事業の内容》



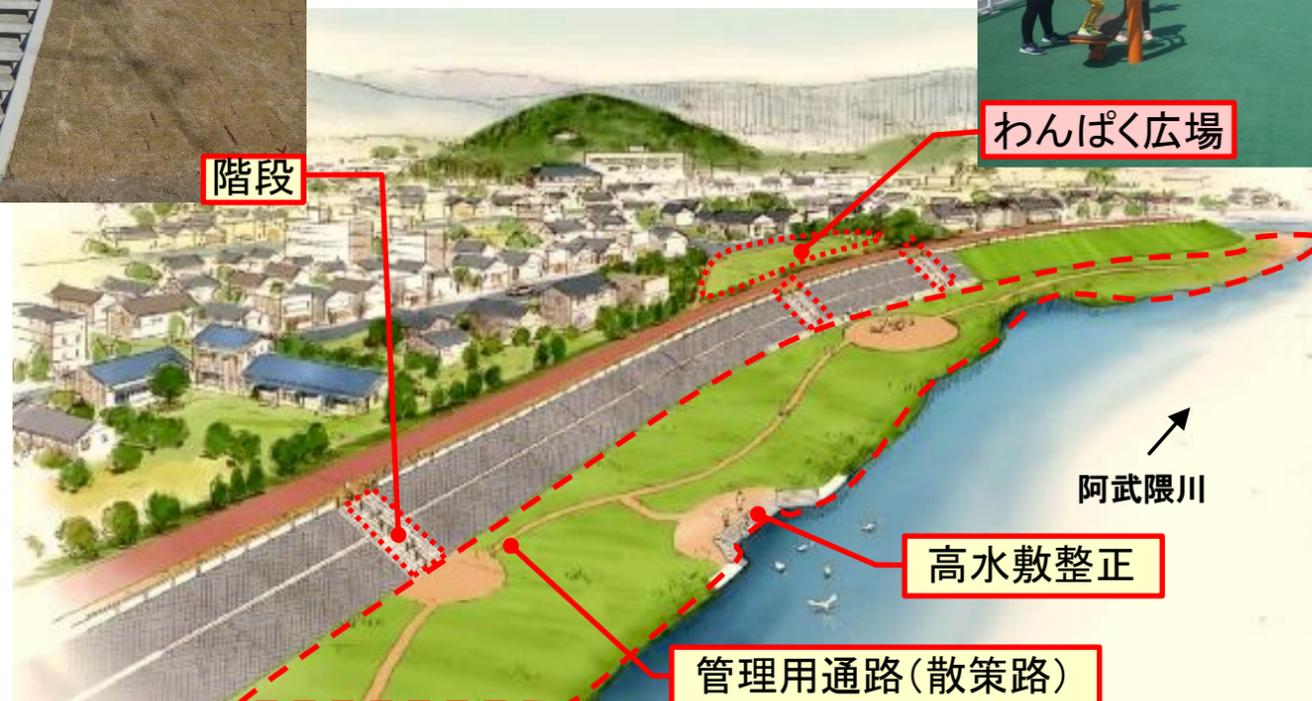
整備内容	
国土交通省	管理用通路(散策路)、階段、高水敷整正など 【事業費 170百万円】
本宮市	憩いのスペース(わんぱく広場) 【事業費 10百万円】



階段



わんぱく広場



高水敷整正

管理用通路(散策路)

阿武隈川

(昭代橋下流)

【事業の効果】

- 管理用通路や階段等の整備により、阿武隈川沿いの回遊性・安全性が向上し、河川利用が活性化されてきています。
- 阿武隈川の河川空間の利便性が向上したため、日々の利用が促進されるとともに、各種イベントが開催され、川とまちの交流の場として活用されています。

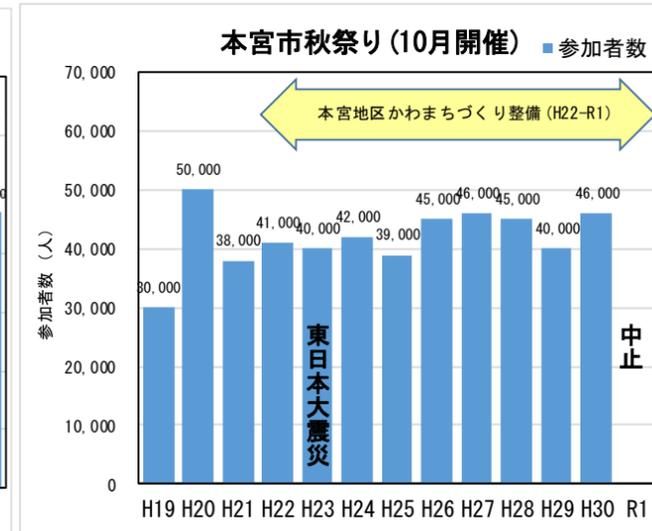
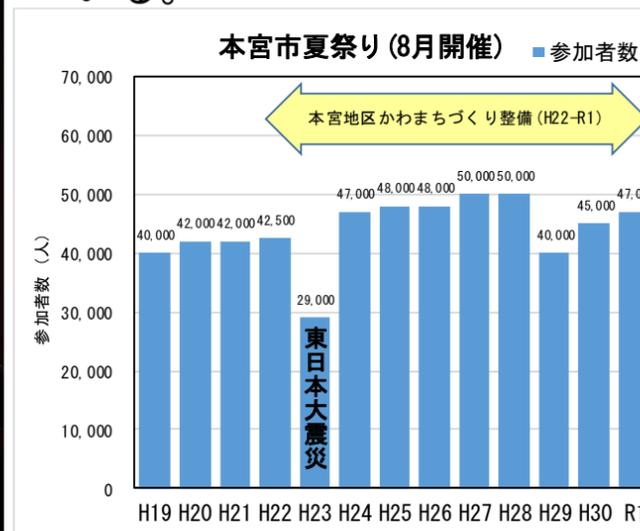
本宮市夏祭り・イベント



日々の利用



- ・ 阿武隈川へのアクセスが向上し、身近な自然環境に触れられる場、日常の健康増進に寄与する場として活用されている。
- ・ また、わんぱく広場は、子供たちの遊び場として利用されている。



出典：福島県観光客入込状況

- ・ 毎年、8月に夏祭りが開催されている。
- ・ 整備後は川沿い周辺の利便性が向上し、水辺が様々なイベント会場となっている。

- ・ 恒例行事である本宮市夏祭り及び本宮市秋祭りは、3～5万人程度の集客がある。

【事業の目的】

- 桑折町は、阿武隈川とこおり桃源郷との一体的な親水拠点の形成を目指し、「水辺と桃の資源を活かしたグリーンツーリズムの拠点づくり」をテーマにまちづくりを推進しています。
- 「桑折町歴史的風致維持向上計画」では、重点地区として、「阿武隈川氾濫原の果樹栽培にみる歴史的風致」が設定されており、まちとの周遊型イベントの支援、周遊ルート等の環境整備を推進することとしています。
- 桑折町では、水辺と桃を活かしたまちづくりとして、桃の郷ポケットパーク周辺の改修や農業振興活動拠点施設「Legare Koori(レガーレこおり)」の整備など地域交流活性化を進めています。
- 「桑折地区かわまちづくり事業」は、桑折町と連携し、こおり桃源郷を望む阿武隈川を軸に、まちとかわを結ぶ多様な交流活動を展開するほか、近隣市町からのアクセス・連携を強化し、まちとかわの回遊・体験空間を形成することで、観光振興及び地域の活性化を目指します。

桑折地区の状況

こおり桃源郷



天皇・皇后両陛下
(現上皇・上皇后両陛下)
ご訪問の様子



阿武隈川の堤防から見た「桃源郷」

拠点施設等



農業振興活動拠点施設
Legare Koori(レガーレこおり)



桃の郷ポケットパーク

利用状況



堤防より桃源郷を眺める観光客



ノルディックウォーキングイベント



サイクリング



BBQフェス(桃源郷)

【事業の内容・期待される事業の効果】

- 桑折町のこおり桃源郷周辺における事業と連携した、親水護岸、多目的広場、散策路等の整備により、河川利用の活性化が期待されます。
- 阿武隈川の河川空間の利便性が向上することにより、ウォーキング、サイクリング、カヌー等のイベント利用が促進され、観光振興や地域活性化につながる事が期待されます。

《事業の内容》

	整備内容(予定)
国土交通省	親水護岸、階段、高水敷整地、管理用通路(散策路)、側帯など【事業費 377百万円】
桑折町	多目的広場、展望スペース・ベンチ、案内看板、トイレ改良など【事業費 30百万円】

《事業の効果》

- ・ 「こおり桃源郷」を望む舞台・阿武隈川を軸に、まちとかわを結ぶ多様な交流活動が展開される。
- ・ 阿武隈川の多様な自然を体験する水辺空間を形成することで、様々なイベントに活用することができる。



伊達崎排水機場周辺



カヌーイベント

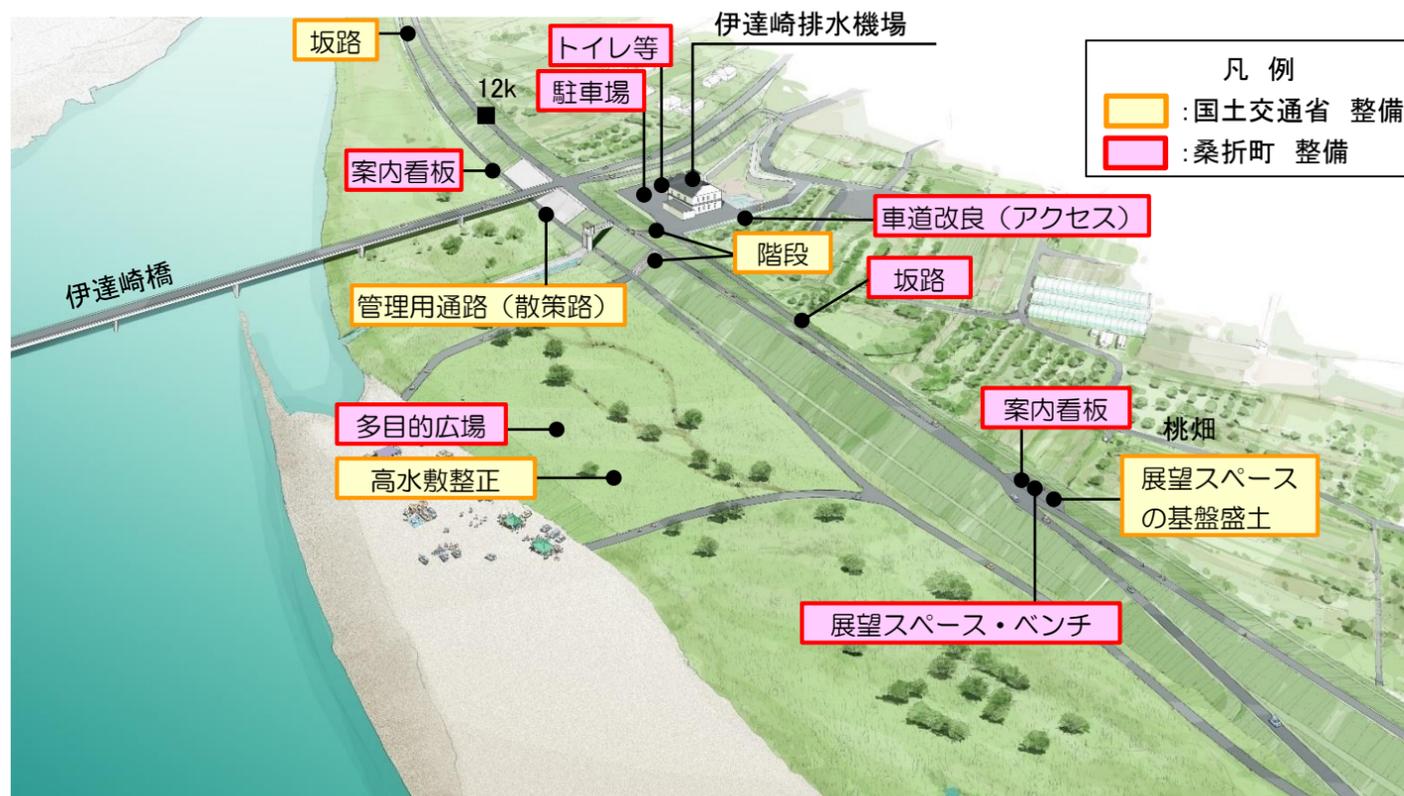
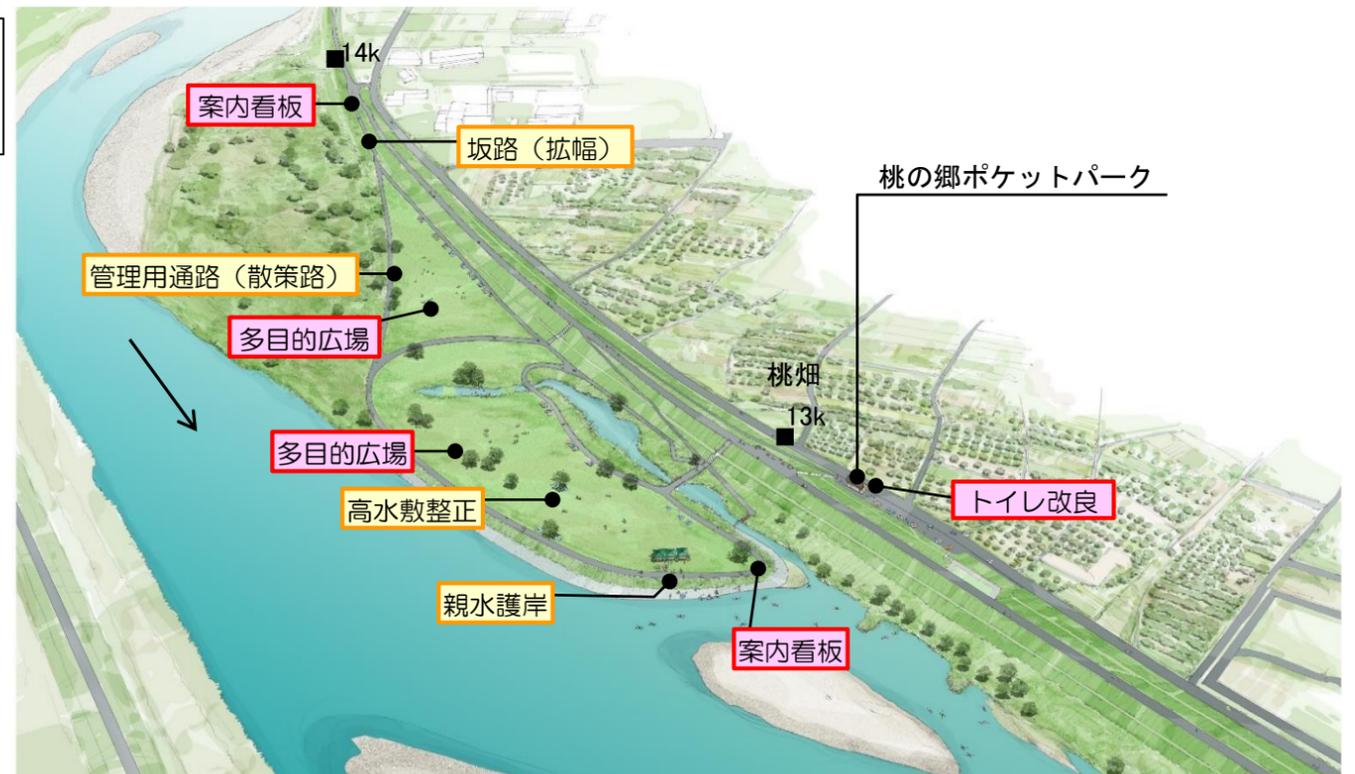


サイクリングイベント



バスツアー(花見)

桃の郷ポケットパーク周辺



凡例
 □ : 国土交通省 整備
 □ : 桑折町 整備

【事業の目的】

- 乙字ヶ滝は日本の滝100選に選ばれた名滝であり、付近には芭蕉が訪れ句を詠んだことを示す石碑や不動堂、昭和2年永久橋として落成した乙字橋等の歴史的環境、公園、サイクリングロード(乙字ヶ滝公園が起点)等が整備されています。
- 玉川村では、乙字ヶ滝とその周辺の観光拠点との周遊性を主体とした交流人口の拡大を目指し、まちづくりと一体となった水辺利用を推進しています。
- 「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり事業」は、玉川村が進めるまちづくりと連携し、親水拠点を形成することで、河川空間を活用した地域の観光振興を図ります。

「芭蕉も愛でた日本の滝100選・乙字ヶ滝を新たな交流拠点に」

立ち寄る機会を増やす



滞在する時間を延ばす



交流が拡大する

乙字ヶ滝地区の状況



乙字ヶ滝下流側



乙字ヶ滝上流側



乙字ヶ滝公園



芭蕉像・曾良像と説明版

利用状況・イベント



鯉のぼりイベント(5月実施)



水辺で乾杯イベント(7月実施)



乙字ヶ滝周辺での釣りの様子

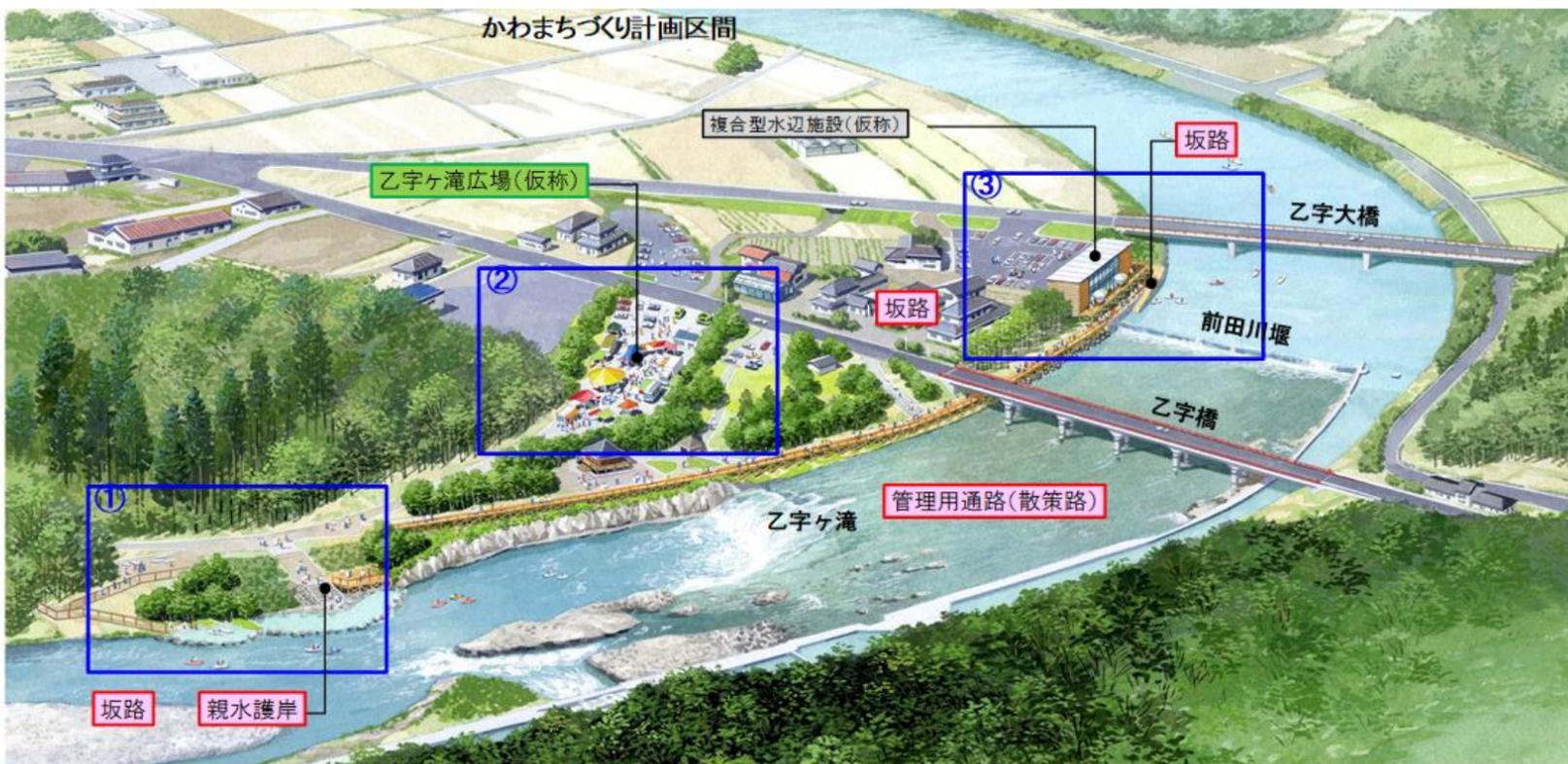
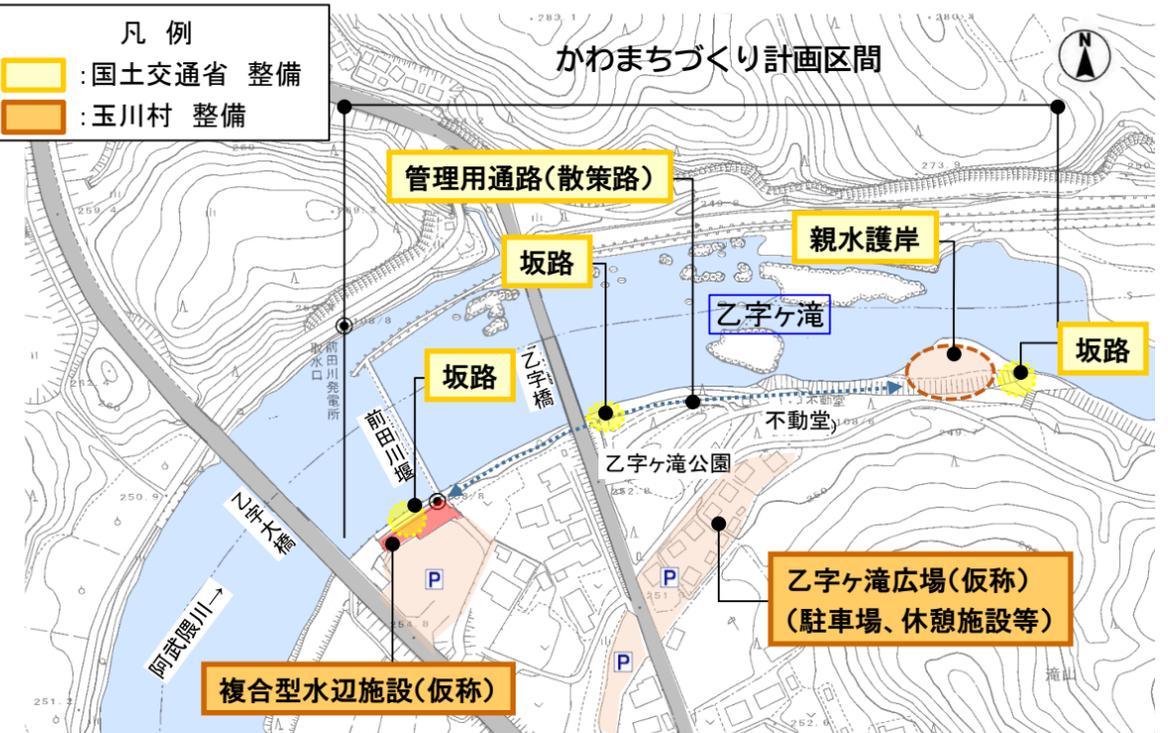


みちのくサイクリングロード利用状況

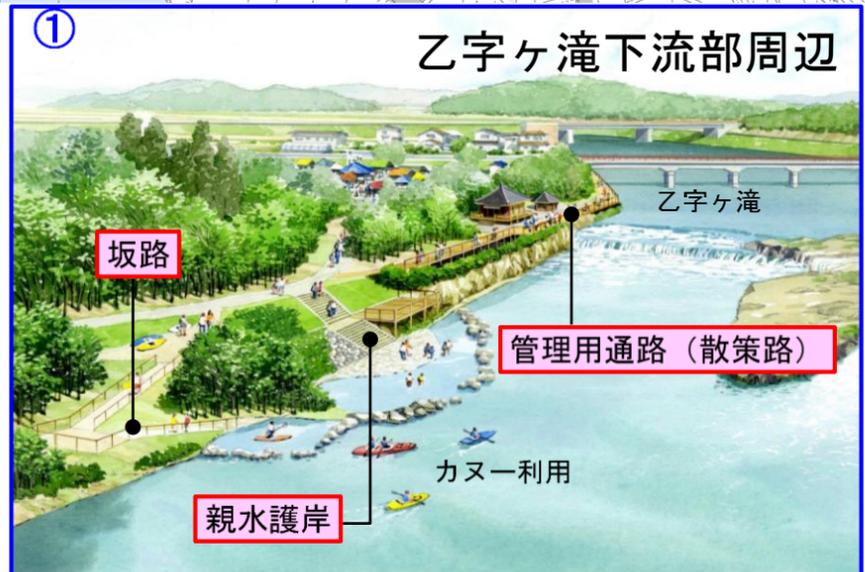
【事業の内容】

- 玉川村では、乙字ヶ滝地区と村内の各観光拠点を結び、周遊性を主体とした利活用を進めることを目指しています。
- 整備にあたっては、町の事業と連携し、親水護岸、管理用通路、坂路等の整備を行う予定です。

整備内容(予定)	
国土交通省	管理用通路(遊歩道、散策路)、坂路、親水護岸など 【事業費 470百万円】
玉川村	広場、駐車場・カヌー艇庫、看板など 【事業費 384百万円】

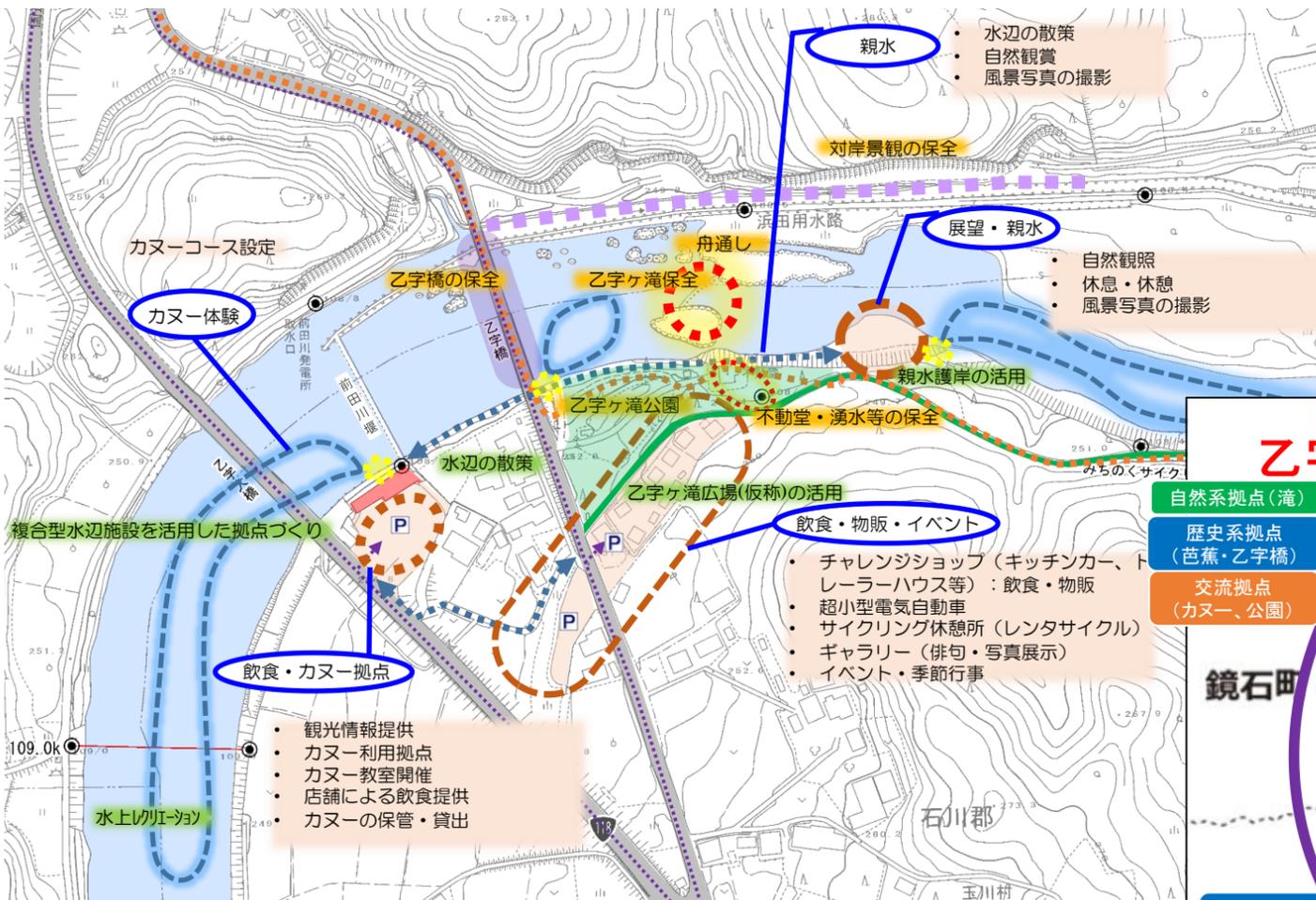


乙字ヶ滝地区整備イメージ図

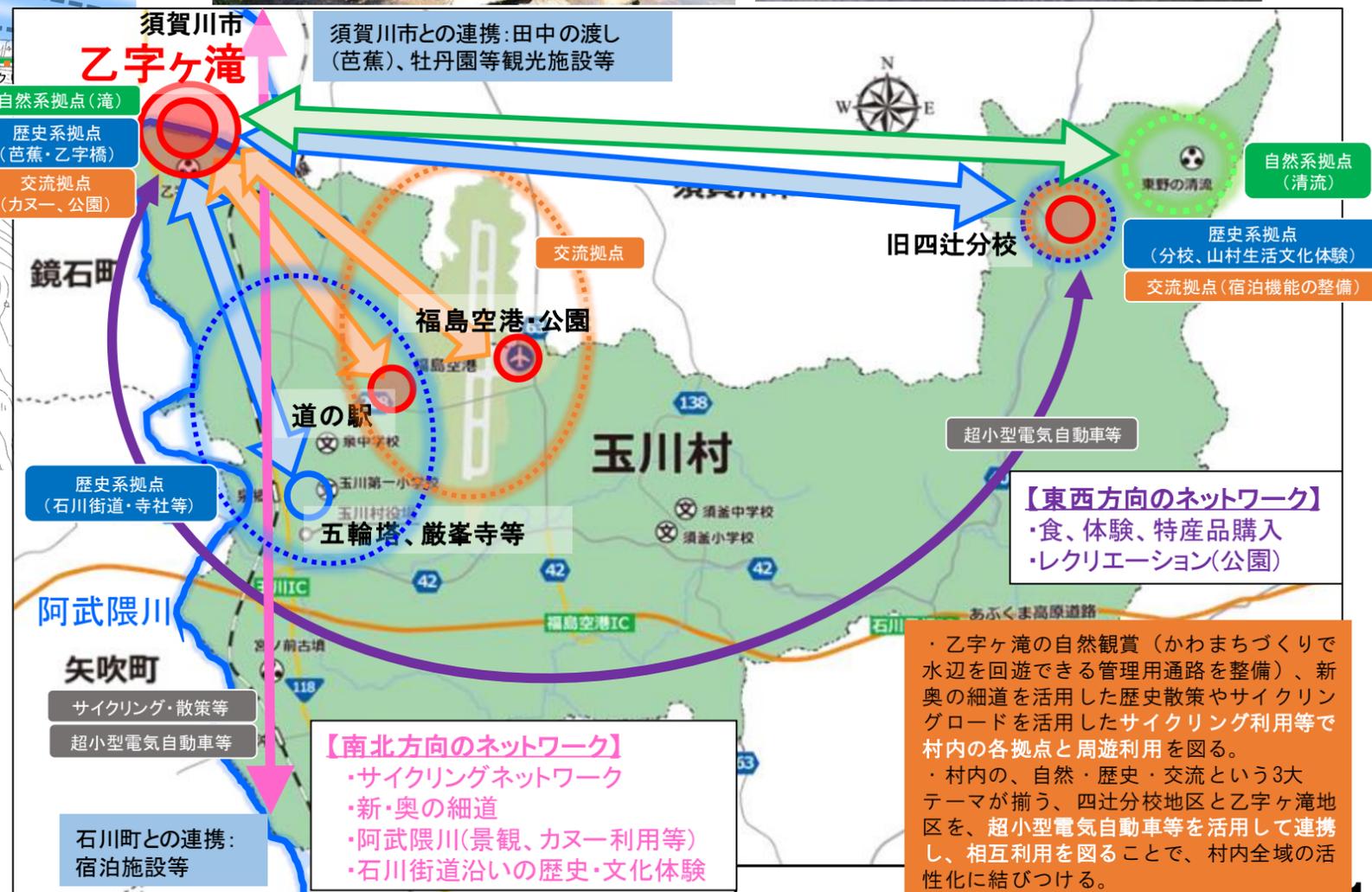


【期待される事業の効果】

- 玉川村の事業と連携した、親水護岸、管理用通路、坂路等の整備により、日常的な賑わいと交流の場となることが期待されます。
- 玉川村の創業支援事業と連携し親水拠点を整備することで、来訪者への飲食物販や各種サービスの提供の場が形成され、賑わいの創出や交流の継続化が期待されます。



乙字ヶ滝地区の活用



乙字ヶ滝地区を核としたネットワーク



事業の進捗状況と今後の見通し

【事業の進捗状況】

【事業実施状況(令和2年度末時点)】

- (1) 全体事業費: 約13.1億円
- (2) 整備済み事業費: 約6.1億円
- (3) 進捗率: 全体の約46.7%
- (4) 残事業費(整備中・予定): 約7.0億円

【今後の事業の見通し】

- 全体計画4箇所のうち、令和元年度までにふくしま荒川地区かわまちづくり及び本宮地区かわまちづくり2箇所が完成している。
- 「桑折地区かわまちづくり」は、安全かつ賑わいのある水辺空間の創出を図ることを目的に、令和元年度に事業に着手し、令和5年度の整備完了を目指している。
- 整備にあたっては、地元関係者、桑折町と連携しながら、「桑折地区かわまちづくり検討委員会」を開催して、整備内容や管理運用等について検討を行い、進めているところである。また、整備完了後も、令和10年度までの期間は、モニタリング・分析評価等を実施する予定である。
- 「玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり」は、河川空間を活用した地域の観光振興を図ることを目的に、令和3年度に事業着手し、令和7年度の整備完了を目指している。
- 整備にあたっては、地元関係者、玉川村と連携しながら、「乙字ヶ滝地区かわまちづくり検討委員会」を開催して、整備内容や管理運用等について検討を行い、進めているところである。また、整備完了後も、令和12年度までの期間は、モニタリング・分析評価等を実施する予定である。

費用便益算定

【前回からの主な変更点】

■費用算定方法の相違

	今回の検討(R2)	前回の検討(H30)
事業箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・整備済（完了箇所評価済）1地区（ふくしま荒川地区かわまちづくり） ・整備済（モニタリング中）1地区（本宮地区かわまちづくり） ・整備中 1地区（桑折地区かわまちづくり） ・整備予定 1地区（玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり）追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備済（完了箇所評価済）1地区（ふくしま荒川地区かわまちづくり） ・整備中 1地区（本宮地区かわまちづくり） ・整備予定 1地区（桑折地区かわまちづくり）追加
事業期間	H19～R12（2007～2030）	H19～R10（2007～2028）
全体事業費	約13.1億円（現在価値化前） （以下の事業の事業内容変更による事業費の見直し） ■玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり：約470百万円増（地区の追加）	約8.4億円（現在価値化前） （以下の事業の事業内容変更による事業費の見直し） ■本宮地区かわまちづくり：約20百万円増 ■桑折地区かわまちづくり：約377百万円増（地区の追加）
維持管理費	約106百万円（現在価値化前） ■玉川村乙字ヶ滝かわまちづくりの追加による維持管理費の増加 ■本宮地区かわまちづくり及び桑折地区かわまちづくりの維持管理費の増加（実績に基づき算出）	約101百万円（現在価値化前） ■桑折地区かわまちづくりの追加による維持管理費の増加

■便益算定方法の相違（玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり：CVM）

	今回の検討(R2) CVM ^(※1)
	玉川村乙字ヶ滝かわまちづくり
集計範囲	事業箇所から14km圏内（R1プレ調査結果より設定）
対象世帯数	68,831[世帯] 事業箇所から14km圏内に含まれる地区の世帯数（R2.4.1福島県統計表）
アンケート調査	有効回答300票程度を目標に、プレ調査等の回収率・有効回答率から設定した2,000票（住民基本台帳より抽出） 回答数：1,083票
支払意思額	356[円/月・世帯] 回答アンケートから抵抗回答等を排除した、有効回答435票からの平均支払意思額

(※1)CVM:環境整備の便益を、個人や世帯が対価として支払ってもよいと考える金額(支払意思額(WTP))をもって評価する手法

注:本宮地区かわまちづくり、桑折地区かわまちづくりは、前回(H30)事業再評価においてCVM調査を実施しているため、今回の事業再評価では前回の調査結果を用いることとした(今回は、CVM調査は未実施)

事業の投資効果

【費用便益比】

- 全体事業の費用便益比(B/C)は11.1、残事業は10.6、完了地区は12.2と算定。いずれも1.0を上回っていることから投資効率性が良い。
- 投資効率の感度分析では、全体事業及び残事業ともに1.0を上回る。
【全体事業:B/C=10.0~12.3、残事業:B/C=9.6~11.7】

【費用便益比 (B/C) の算出】

[現在価値化]

		今回の評価(R2)			前回の評価(H30)		
		全体事業	残事業	完了地区	全体事業	残事業	完了地区
費用	総費用C	15.9億円	10.6億円	5.2億円	10.1億円	5.5億円	4.6億円
	建設費	15.3億円	10.5億円	4.9億円	9.6億円	5.4億円	4.2億円
	維持管理費	0.5億円	0.2億円	0.4億円	0.5億円	0.1億円	0.4億円
効果	総便益B	177.0億円	113.1億円	63.9億円	115.2億円	56.1億円	59.1億円
	便益	176.9億円	113.0億円	63.9億円	115.2億円	56.1億円	59.1億円
	残存価値	0.1億円	0.1億円	0.0億円	0.0億円	0.0億円	0.0億円
費用対便益比(CBR) B/C		11.1	10.6	12.2	11.4	10.1	12.9
純現在価値化(NPV) B-C		161.1億円	102.5億円	58.6億円	105.1億円	50.6億円	54.5億円
経済的内部収益率(EIRR)		29.1%	22.9%	31.2%	30.1%	21.7%	32.4%

注: 表示桁数の関係で計算値が一致しないことがある

【感度分析 (全体事業)】

	基本 ケース	残事業費変動		残工期変動		便益変動	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
総費用C(億円) (現在価値)	15.9	16.6	15.2	15.8	16.0	15.9	15.9
総便益B(億円) (現在価値)	177.0	177.0	177.0	175.0	179.0	194.7	159.3
費用便益比 B/C	11.1	10.7	11.6	11.1	11.2	12.3	10.0

【感度分析 (残事業)】

	基本 ケース	残事業費変動		残工期変動		便益変動	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
総費用C(億円) (現在価値)	10.6	11.3	10.0	10.5	10.7	10.6	10.6
総便益B(億円) (現在価値)	113.1	113.1	113.1	111.1	115.1	124.4	101.8
費用便益比 B/C	10.6	10.0	11.3	10.5	10.7	11.7	9.6

● 表中の赤字: 費用便益比が最大、表中の青字: 費用便益比が最小

地域の協力体制等

河川愛護活動や河川清掃活動

- 整備済箇所では、日常的な親水活動やイベントの場として利用されているほか、地区町内会等による積極的な維持管理が実施されており、地域との協力体制が構築され、河川利用及び河川愛護の機運が高まってきている。
- 地域住民と連携した清掃活動を継続的に実施している。



うつくしま・みずウォーク
(ふくしま荒川地区かわまちづくり)



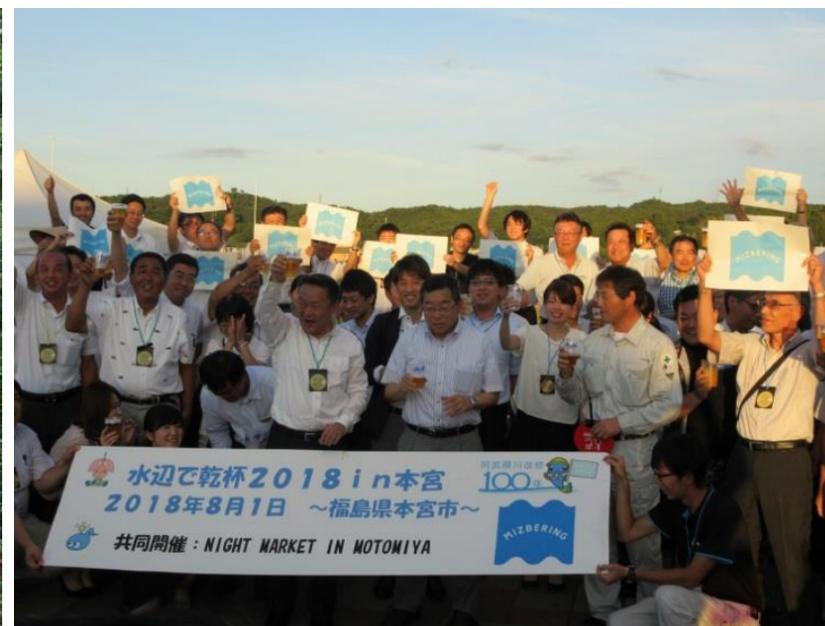
あらかわ・ふるさとの川ウォーキング
(ふくしま荒川地区かわまちづくり)



サケの稚魚の放流
(ふくしま荒川地区かわまちづくり)



霞堤手入れ大作戦
(ふくしま荒川地区かわまちづくり)



ナイトマーケットinもとみや
(本宮地区かわまちづくり)



本宮市夏まつり
(本宮地区かわまちづくり)

コスト縮減の取組み

【コスト縮減の取組み】

- 他事業などにより発生した伐採木を活用し、散策路へのウッドチップの敷設や休憩施設への活用などによりコスト縮減を図っている。
- 維持管理において、地域団体により清掃活動に協力をいただいている。



荒川下流右岸での萱刈り取り



伐採木を活用した休憩施設



クリーンアップ作戦(上流部)



クリーンアップ作戦(下流部)

県からの意見

【県からの意見】

●宮城県知事、福島県知事からは事業継続に対して異議はない旨の回答をいただいている。

● 宮城県知事からの回答



土総第 601号
令和2年 12月 2日

国土交通省東北地方整備局長 殿

宮城県知事 村井嘉浩



東北地方整備局所管の再評価対象事業の対応方針（原案）作成に係る
意見照会について（回答）

本県土木行政の推進につきましては、日頃格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、令和2年10月26日付け国東整企画第96号で依頼のありましたこのことについては、下記のとおりです。

記

- 1 対象事業
阿武隈川総合水系環境整備事業
- 2 意見
「対応方針（原案）」のとおり「継続」で異議ありません。

● 福島県知事からの回答



2企技第 929号
令和2年11月30日

国土交通省
東北地方整備局長 様

福島県知事
(公印省略)

東北地方整備局所管の再評価対象事業の対応方針（原案）作成に係る
意見照会について（回答）

令和2年10月26日付け国東整企画第96号により依頼のありましたこのことについては、下記のとおりです。

記

- 1 事業に対する意見
(1) 阿武隈川総合水系環境整備事業
国の対応方針（原案）案については、異議ありません。
なお、今回追加となる箇所も含め、引き続き多くの人々が活動を展開できる良好な水辺環境の整備に努めてください。

対応方針(原案)

①事業の必要性に関する視点

- 整備済みのふくしま荒川地区かわまちづくり及び本宮地区かわまちづくりについては、日常的な親水活動やイベントの場として利用されているほか、地区町内会や市民団体等による積極的な維持管理が実施されており、地域との協力体制が構築され、河川利用及び河川愛護の意識が高まってきている。
- 整備中の桑折地区かわまちづくりについては、こおり桃源郷を望む阿武隈川を軸に、まちとかわを結ぶ多様な交流活動の展開、近隣市町からのアクセス・連携を強化するため、桑折地区においてまちとかわの回遊・体験空間形成の整備が求められている。
- 整備予定の玉川村乙字ヶ滝かわまちづくりについては、乙字ヶ滝地区を核とする交流拠点の形成、村内外の各観光拠点とを結ぶネットワークを形成するため、乙字ヶ滝地区において「まち」と「かわ」が融合した良好な空間形成の整備が求められている。
- 事業の投資効果を評価した結果、費用便益比(B/C)が全体事業では11.1、残事業では10.6となっており、今後も投資効果が期待できる。

②事業の進捗の見込みの視点

- これまでに全体計画4箇所のうち2箇所が完成し、進捗状況は全体の約46.7%(事業費率)である。
- 桑折地区かわまちづくりは、地元自治体と連携しながら関連事業と一体的に推進することにより、令和5年度に整備完了する予定である。整備完了後も、モニタリング・分析評価等を行い、令和10年度に完了する予定である。
- 玉川村乙字ヶ滝かわまちづくりは、地元自治体と連携し、令和3年度に事業着手し、令和7年度の整備完了を目指している。整備完了後もモニタリング・分析評価等を行い、令和12年度に完了する予定である。

③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- 他事業などで発生した伐採木を散策路のウッドチップ敷設等に有効活用することでコスト縮減を図っている。
- 維持管理において、地域団体により清掃活動に協力を頂いている。

④地方公共団体等の意見

- 宮城県知事、福島県知事の意見として、事業の継続に異議はない旨の回答をいただいている。

以上より、今後の事業の必要性、重要性に変更はなく、費用対効果等の投資効果も確認できることから、阿武隈川総合水系環境整備事業については『**事業継続**』が妥当である。